和歌山での留学生活

趙鈺
経済学部　交換留学生 中国

中国と日本とは、関係深い隣国であり、日本文化は中国文化の影響を大いに受けて、その影響はすでに日本社会の隅々にまで浸透していると言われる。しかし、日本と中国はいろいろ違うものがある。生活習慣と文化と飲食などが違う。日本に来てもう一ヶ月ぐらい経つ。来る前にいろいろな想像をした。日本はどのような国だろうか。日本で全部の食べ物が生であるか。街が狭く、車が少ないかもしれないと思っていた。

私が日本へ来て第一の印象は、環境が綺麗であるということである。私はその整った街並み、青い空、清潔な街中に驚くだろう。ゴミ箱が少なく、どこにもゴミを見かけることはなく、清潔な環境が日本の「名刺」になっている。日本人のエコ意識が本当に強い。最も特別なものはごみの分別だと思う。資源ゴミを種類ごとに回収して、再利用するために資源ゴミを種類ごとに回収するのだが、その分別が非常に細かい。それに対して、中国の道にはゴミが多く、ゴミ箱も多い。あるところは、時々ハエが飛び、汚水があふれて、環境をひどく汚染する。中国に適したゴミ処理法を制定すべきだと思う。市民がそれを重視し、法律・法規・制度も整える必要がある。

また、街を散歩すれば非常に静かだ。日本人は車のクラクションをならさない。それに対して、中国の街がにぎやかである。そして、日本の運転手は交通ルールを守る。信号を無視する人はあまりいない。そのため、通行人は外へ出て交通安全が確保ができる。公共交通機関が発達していることも素晴らしい。道は狭いのに渋滞しない。

静かな和歌山市でいろいろなイベントがある。ここに来た後、和歌祭にも参加した。和歌祭とは毎年、5 月第 2 週日曜日に行われる紀州東照宮の大祭の渡御の呼称である。和歌山県の最大の年中行事のひとつとして欠かすことのできない神事である。今回、私は腰元としてこの活動に参加した。腰元は矢絣の着物を着て菖蒲をもって行列に加わっている。戦後、大名駕籠の行列に随う役割として舞姫とともに加えられ、現在、公募の一般参加者等がこの役割を担っている。

祭りの２日前の夜、腰元を担当する皆集まって、一緒に練習した。東照宮の先生は歩き方や花の持ち方などという注意事項について説明した。5 月 14 日 10 時に東照宮に着いた。着物を着るのは、本当に複雑。非常にきつかったから、息苦しくなった。いよいよ 12 時になり、和歌祭が始まった。天気が暑かったが、腰元を担任の皆が頑張った。行列で歩き、神様に花を捧げた。4 時間にわたる活動が終わった。

外国人として、この活動に参加することができたのは嬉しい。着物を着る機会が少なく、地元の人とのコミュニケーションも少ないため、今回、これに参加することは私の一生わすれられないことである。

しかし、困ることもある。それは「すみません」ということだ。「すみません」に対する中国語は「対不起」であるが、これが分かりにくい。街で人に何かを聞くときに使う「すみません」。これはほかの人の足を止めさせて申し訳ないという気持ちを表す。しかし、日本語の「すみません」は謝りのことばと言うより呼びかけ謙譲語と言ったほうがいいと私は思う。レストランでの「すみません、お水を下さい」もお手数をかける意味だ。「すみません」には「謝罪」と「呼びかけ」の二つの意味があるようだ。一方、中国の「対不起」には呼びかけ語としての役割はない。これは本当に難しいと思う。

日本に来よかったと思う。勉強した国の文化を経験できるのは素晴らしいことである。和歌山大学で勉強することは一生わすれられないことであろう。